

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

心と体のリフレッシュの舞台となるオアシスゾーンを目指して

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

香川県及び高松市

### 3 地域再生計画の区域

高松市の区域の一部（旧塩江町）

### 4 地域再生計画の目標

旧塩江町は、平成 17 年 9 月 26 日に高松市と合併したところであるが、香川県のほぼ中央に位置し、南の徳島県境には東西に走る讃岐山脈が連なり、東西 10.5km、南北 8.5km、総面積 80.10 k m<sup>2</sup>、大部分を山林が占める阿讃山麓の代表的な峡谷の町である。

また、内場川、小出川などを集めた内場池（内場ダム湖）が、町の中央にあり、香東川に合流して讃岐平野に流れている。耕地は山間部と香東川などの河川に沿って散在し、集落は香東川沿いの国道 193 号と内場池南側に集中しているほか、山間部にも点在している。

また、旧塩江町には、その昔、名僧行基が発見し、弘法大師によって広められたと言われる県下有数の歴史ある温泉があり、辺り一帯は、讃岐山脈に囲まれた自然休養村、県立自然公園になっており、平成 14 年には、塩江温泉が、環境省の「国民保養温泉地」に指定されている。

また、平成元年には、環境庁（現環境省）から「ホタルの里」として選定され、芸術と文化とスポーツの拠点として誕生した「ホタルと文化の里」には、塩江美術館や多目的グラウンド、野外ステージ、ゲートボール場など、多彩な施設が整備されており、緑豊かな山々と清流に囲まれ、コミュニケーションの場として親しまれている。

しかしながら、旧塩江町では、山間地域共通の現象である人口の高齢化や過疎化が急速に進行しており、平成 12 年には、昭和 55 年からの 20 年間で人口が 21%減少し、高齢化率も 15.9%から 37.3%へ上昇している。この傾向がこのまま継続すると、平成 32 年には、3,640 人の人口が 14%減少し、高齢化率も 41%を超えるものと考えられている。また、地域産業のうち、農林業においても、近年では、担い手の減少や高齢化による労働力不足に

歯止めがかからず、農地、森林の荒廃が懸念されているとともに、他の産業の活力も低迷している状況にある。

これらを改善するためには、少子高齢化や若者の流出による後継者不足への対策が重要と考え、住環境に関わる基盤整備のため、道路整備に取り組むものである。旧塩江町には、主要幹線道路として、国道 193 号が縦貫しているものの、これを補完する道路が一部未整備であり、交通ネットワークに支障を来していることから、これらを整備することにより、安心して定住できるようにするとともに、各施設の有効活用につながり、前述の課題が解消されるものと考えられる。

そこで、道整備交付金を活用することにより、市道・林道の効率的な整備を行い、集落間のアクセスを改善し、地域の交通ネットワークの構築を図るものである。これにより、定住環境の改善を図るとともに、造林、保育、間伐を促進させ、森林の水源涵養機能の維持向上と健全な森林育成を図るほか、観光施設へのアクセスを改善し、地域の活力と住民の元気を育てようとするものである。

合併後の高松市においては、旧塩江町を「心と体のリフレッシュの舞台となるオアシスゾーン」として位置付けており、豊かな自然や、温泉などの特性と機能を活かし、広く市民に、自然と調和のとれた安心とやすらぎを提供できるまちづくりを進めていくこととしている。

#### 【目標 1】 アクセス改善および安全性の確保

迂回時間の短縮 10 分

#### 【目標 2】 観光振興

観光客 320,000 人（平成 17 年実績）の 10%増

#### 【目標 3】 林道整備による間伐事業の推進

間伐等森林整備実施面積（平成 17 年度実施面積 46ha）の 10%増

### 5 目標を達成するために行う事業

#### 5 - 1 全体の概要

合併時に作成したまちづくりプランである「建設計画」において、旧塩江町は「心と体のリフレッシュの舞台となるオアシスゾーン」と位置付けており、「高松・塩江温泉郷」、「ホテルと文化の里」および「道の駅しおのえ」などの既存施設を活用するとともに、桜まつり、ホテルまつり、温泉まつり、紅葉まつりなどのイベントを通じ、農林業に対する啓発活動や都市との交流を促進し、地域の活性化を図ることとしている。

本計画で整備する路線は、生活道路、林道、観光ルートなどの役割を担

っており、「建設計画」にも記載されている重要な路線である。

旧高松市に隣接する塩江町安原下地区の「市道檀橋谷線」は、国道 193 号につながる道路であり、温浴施設「ループしおのえ」の利用促進が図られる。

また、塩江町中村地区の「市道来栖中村線」については、現在、香東川の河川の中に潜水橋があるが、河川の通水阻害になるため、高欄を設置することができないため、通行上危険であるとともに、高水時には、通行不能となっているが、橋梁を新設することにより、迂回時間の短縮や通勤、通学路として、安全、安心な通行が確保でき、周辺に市営住宅や保育施設がある中で、定住化を促進する上で、有効と考えられる。

また、塩江町安原下橋谷地区集落から国道 193 号へのアクセス道路である「市道関橋谷線」については、本来の道路機能を回復させ、集落へのアクセスを改善するほか、同路線沿いにある高松市最大のゴミ処理施設「南部クリーンセンター」への搬入路として、安定したゴミ処理を図る。

また、「林道六甲天満ヶ原線」の未改良区間の整備により、通行の安全性を確保し、集落間のアクセスを改善するとともに、間伐の促進や特用林産物の生産など、山林資源の活用と森林機能の回復を図る。

いずれの事業も重要な基盤整備として位置づけており、地域の交通ネットワークを構築し、地域再生を図ろうとするものである。

## 5 - 2 法第 4 章の特別の措置を適用して行う事業

### 道整備交付金を活用する事業

対象となる事業は、以下の事業開始に係る手続き等を了している。

なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

- ・市道「檀橋谷線」・・・道路法に基づく町道に平成 16 年 3 月 16 日路線認定済
- ・市道「来栖中村線」・・・道路法に基づく町道に昭和 57 年 7 月 29 日路線認定済
- ・市道「関橋谷線」・・・道路法に基づく町道に昭和 63 年 6 月 30 日路線認定済
- ・林道「六甲天満ヶ原線」・・・森林法による「香川地域森林計画」に掲載済

### 【施設の種類（事業区域）、実施主体】

- ・市道（高松市塩江町） 高松市
- ・林道（高松市塩江町） 高松市

### 【事業期間】

- ・市道（平成 19～23 年度）、林道（平成 20～23 年度）

【整備量及び事業費】

- ・市道 2,242m、林道 341m
- ・総事業費 1,300,000 千円
  - 市道 1,260,000 千円（うち交付金 630,000 千円）
  - 林道 40,000 千円（うち交付金 20,000 千円）

5 - 3 その他の事業

「心と体のリフレッシュの舞台となるオアシスゾーン」を達成するため、以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

継続事業として、中山間地域等直接支払制度を活用し、耕作放棄地の発生防止や集落協定等の活動を通じて、担い手の育成と優良農地の保全を図る。

新規事業として、農林水産省の県営中山間地域総合整備事業により、地域の創意工夫を生かした生産基盤の整備を行い、優良農地の確保および生産性の向上を促進する予定である。

継続事業として、浄化槽設置整備事業により、公共下水道と農業集落排水の計画区域外における設置希望者に対し、補助を行う。

継続事業として、森林整備事業を活用し、森林組合等の除間伐施業により、林地の適正管理を図る。

単独県費事業により、県道穴吹塩江線、県道久保谷塩江線、県道粉所西中徳線、県道美馬塩江線を改良し、通行の安全を確保する。

「高松・塩江温泉郷」、「ホテルと文化の里」および「道の駅しおのえ」などの既存施設を活用するとともに、桜まつり、ホテルまつり、温泉まつり、紅葉まつりなどのイベントを通じ、交流促進を図る。

6 計画期間

平成 19 年度～平成 23 年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

4 に示す地域再生計画の目標については、計画終了後に必要な調査を行い、状況を把握し、達成状況の評価、改善すべき事項の検討等を行う。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

特になし